

呼吸器外科

曜日	内容	担当	集合時間	集合場所
月	オリエンテーション (心得、症例割当、呼吸器外科治療)	舟木教授	9:00	胸部腫瘍学カンファレンスルーム (8号館4階)
	講義1 (スライド作成方法、文献検索)	近藤	15:30	胸部外科セミナー室 (8号館5階)
火	手術見学 (AM 1症例、PM 1症例)	担当医	9:00	手術室 (急性医療総合センター4階)
	* 月曜休日の場合、 8:30~医局集合(8号館8階)	担当医	(2例目~)	
水	手術見学 (AM 1症例)	担当医	9:00	手術室 (急性医療総合センター4階)
	気管支鏡検査	竹ヶ原	13:30	TV室 (1号館2階)
	回診(入院症例検討)		15:30	胸部腫瘍学カンファレンスルーム (8号館4階)
木	手術見学 (AM. 2症例、PM 1症例)	担当医	9:00	手術室 (急性医療総合センター4階)
		担当医	(2例目~)	
金	手術見学 (AM 1症例)	担当医	9:00	手術室 (急性医療総合センター4階)
	総括 (症例プレゼンテーション)	舟木教授	14:00	胸部腫瘍学カンファレンスルーム (8号館4階)

◎ 診療科名： 呼吸器外科

◎ 責任者氏名： 舟木 壮一郎 主任教授

◎ 指導教員氏名： 近藤 展行 准教授

◎ 実習概要

1. 手術実習（清潔野での実習を含む）、2. 回診への参加：呼吸器外科入院症例検討（水曜 15 時 30 分～）、3. 講義・臨床レクチャー、4. 検査見学（気管支鏡）、5. 総括（症例スライドのプレゼンテーション）を行う。

呼吸器外科領域の手術見学を中心に、担当症例を設けて実際に診療・手術を経験する。知識の再確認を行い、適格な診断と治療方針の立案を目指す。

◎ 各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

- 呼吸器外科領域における主要な疾患についてアセスメントができる。
- 呼吸器外科領域における主要な疾患の外科治療が説明できる。
- 担当症例を中心に、呼吸器外科治療の流れが説明できる。

◎ 準備学修ならびに事後学修に要する時間

- 3年次の講義資料（呼吸器系の疾患）の復習（1 時間）
- 外科教科書の総論および、呼吸器外科領域の復習（2 時間）。特に胸部腫瘍（肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、中皮腫）の復習（2 時間）
- 手術見学に備えて手洗い・ガウンテクニックの再確認（30 分）
- 臨床解剖学の復習（2 時間）
- パワーポイントによるスライド作成（総括でプレゼンテーションを評価）（2 日間）

◎評価方法

知識、態度（積極性）、コミュニケーション、病態の把握、診察手技、EBM（文献に基づいた考察）、プレゼンテーション技術（構成、スライドの見やすさ、伝え方など）について評価。

評価基準をルーブリックで明示。

【知識★】

点数	基準
5	代表的な疾患に関する質問に詳細に説明できる。
4	代表的な疾患に関する質問に正しく説明できる。
3	代表的な疾患に関する質問に大まかに説明できる。
2	代表的な疾患に関する質問に一部説明できる。
1	代表的な疾患に関する質問に説明できない。

【態度（積極性）★】

点数	基準
5	前期研修医程度に患者さんの診断治療の判断ができる。
4	患者さんの診断治療に対して積極的に対応できる。
3	質問に対して積極的かつ正確に返答できる。（知っている、知らないが明確）
2	質問に対して返答が滞る。（知っている、知らないが不明）学習意欲に欠ける。
1	遅刻、欠席を繰り返す。学習意欲がない。

【コミュニケーション★】

点数	基準
5	チーム医療の一員として適時かつ能動的にコミュニケーションができる。
4	チーム医療の一員として積極的にコミュニケーションができる
3	医学生として適度にコミュニケーションができる。
2	医学生としてコミュニケーションが不十分である。
1	コミュニケーションを行う意欲がない。

【病態の把握】

点数	基準
5	担当症例に関する病態を十分に説明できる。
4	担当症例に関する病態を正しく説明できる。
3	担当症例に関する病態を大まかに説明できる。
2	担当症例に関する病態を一部説明できる。
1	担当症例に関する病態を説明できない。

【診察手技（Mini-CEX、DOPS、シミュレーターを用いた技能評価など）】

点数	基準
5	前期研修医程度の自主的な臨床技能が期待できる。
4	上級医師の管理指導の元で清潔野での手術見学が可能である。
3	上級医師の管理指導の元で手術見学ができる。
2	上級医師の十分な管理指導の元であれば手術見学が可能である。
1	手洗い、ガウンテクニックに難点があり、手術見学が困難。

【EBM（文献に基づいた考察）】

点数	基準
5	網羅的な英文文献検索により論理的な考察ができる。
4	適切な英文文献検索により十分な考察ができる。
3	文献検索ができ、考察の背景に利用できる。
2	文献検索が不十分であり、考察に利用できない。
1	文献検索を用いた考察ができない。

【プレゼンテーション技術（構成、スライドの見やすさ、伝え方など）】

点数	基準
5	学会の症例報告レベルの構成でスライド提示と質疑応答ができる。
4	症例報告として適格な構成でスライド提示ができる
3	作成したスライドを自分で説明することができる。
2	作成したスライドの構成、提示のレベルが不稚拙である。
1	スライドの作成あるいは提示ができない。

◎ 中間評価とフィードバック

手術実習、臨床レクチャーの質疑応答およびプレゼンテーション（総括※）による評価を実施。

※パワーポイントでスライドを作成。内容は、「担当症例の提示、手術内容の提示、術後経過の報告、担当症例に関連する疾患、病態、最新の知見などについて文献を引用しながら作成した考察、まとめと感想」を含める。発表時間5分をめやすに構成し、総括時にプレゼンテーションおよび質疑応答を行う。

◎注意事項

- 初日のガイダンス時に、担当症例割り当て、パワーポイント作成用の雛形を受け取ること。
 - * 月曜日が休日の場合は、火曜日の 8 時 30 分～医局にて担当症例割り当てを行い、引き続いて手術実習に移行する。
- 患者さんに対しては丁寧な言葉使い、態度で接し、身だしなみを保つこと（茶髪、ピアス、マニキュア、携帯電話の使用は厳禁とする）。
- 病棟、手術室（更衣室を含む）では不用意に騒がない。
- 無断欠席は減点対象となる。遅刻、早退は2回で1欠席となる。病欠の場合は医局に連絡すること（呼吸器外科医局 0798-45-6885）。診断書が必要となる場合がある。なお、再実習は原則行わない。
 - * 欠席した場合、追加のレポート提出を課す。提出がない場合には、相応の減点とする。
- 実習中に入手する患者さんの個人情報を含む媒体（紙・電子媒体）の扱いには最大限注意すること。